

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400527		
法人名	有限会社 アロー商事		
事業所名	グループホーム我が家 好間 さくらユニット		
所在地	福島県いわき市好間町下好間字鬼越42-3		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成28年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「我が家」のように共同生活でありながらも個を尊重し、本人らしく笑顔で穏やかに安心して過ごしていただけるような環境創りと心配りを目指しています。
 ・利用者様、ご家族様とのかかわりを大切にしております「生き生き」と過ごしていただけるようにスタッフ一同努めております。
 ・季節の行事をおこみ、買い物やドライブ、自由食等を通して四季を感じたり地域との交流を深め、思い出作りやストレスの軽減に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活動作が低下してきているので、介護支援は、本人のペースに合わせるように心がけている。
 家族には、利用者を理解して最期まで寄り添えるように、積極的に連絡をとり、情報提供している。職員は、経過を含めて最期までの支援が、自らの良い経験となるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につくところに理念を掲示し常に職員が同じ目標に向かって支援できるように努め、ミーティング等でも共有しあっている。	利用者が、自分の家として過ごせるようにとの思いが込められている。日常の支援のなかで、意識してできるように、職員同志が声掛けたりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設駐車場を近隣住民に避難場所として共有すると共に地域見守りネットワークに登録し、避難場所になっている。また、AED設置を公開し誰もが使用できるようにしている。	事業所は、地域の一員として積極的に向き、役割を担っている。事業所の行事には、地元の消防団や近隣人に参加協力を呼びかけして参加者がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや各種実習、職場体験の場としての受け入れ認知症の理解を深めたり、介護サービスに関する相談受付を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間参加者の計画表を立てたり、夏祭りや餅つき会等の行事にかぶせ、できるだけ多くの方に参加して頂けるよう努めています。また、ご家族様同士の交流の場としても気軽に参加して頂けるように努め、助言を頂いて今後のホーム作りに生かす努力をしています。	会議では、日常の生活様子をありのままに報告する事を基本にしている。事故の報告もして、参加者の意見や助言を受け、保護パットの装着等の改善をしている。利用者の現在の状態を理解して受け入れられるように家族への連絡をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員の方や介護相談員の受け入れをし開放的でありのままのホームを見て頂けるようにしています。	利用者の介護認定度が上がっているため、支援方法や対応を相談して食事介助の注意点等の指導を受けている。研修会には積極的に参加して、職員全員で情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はミーティング等で身体拘束となる行為を正しく理解し、日々のケアで身体拘束をしないように努めている。センサーチャイムをつけ、玄関は日中は施錠せず自由に出入りできるようにしている。	利用者が自分で動く事は少なくなり、職員の声掛け介助が主になっている。日中は、居間で過ごしていて心配ないが、夜間、奥の居室利用者には、家族の理解を得て、安全確保のためセンサーマットを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング等を通して虐待防止に関する理解、浸透を図っている。また、職員のモチベーションや職員同士のコミュニケーションを図ることで虐待を未然に防げるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加はしているが、現在活用していない。今後必要になればすぐ利用できるように今後は管理者だけでなく一般スタッフも学ぶ機会を設けられるように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には契約書・重要事項説明書等で十分に説明をし同意を得ている。また、疑問や不安な点がないかを尋ね理解して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したりご家族様来訪時には近況報告をし情報を共有しています。	家族からの意見や要望は来所時、直接聞く事が多い。終末期の家族の対応についての意見に、連携病院の先生と様々な場合を想定した話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の業務ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	管理者は職員が意見を出しやすい様常に心掛けている。自然な流れの中で気付いた事をミーティングで話し合い実践に繋げている。仕事の偏りに付いての意見に、一日の業務の流れのペースを作り、時間ごとに担当職員を変える等、不公平感を無くす工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件等を整え職場環境の整備に努めている。代表者が随時職員とコミュニケーションをはかり、面談等で意見を求めている。また、資格取得に対してのサポートをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせて外部の研修に参加する機会を作っている。研修後は報告書にまとめ情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、研修会等で同業者との交流を図る機会を設けサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は本人の混乱やストレスを最小限に抑える為にご家族のご協力を得ながら1日も早い信頼関係作りに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の想いや立場になって共感することで信頼関係を築き、ご家族が何に困って入居を希望されたのか等をよく聞き取りして必要なケアを見極めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が何に困っているかを早い段階で見極めて、事故のリスクを最小限におさえて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活場面において、それぞれの利用様のキャリアと能力を活かしていただき、職員とお互いが協働しながら支えあえる関係作りや声掛けに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と交流できる場を提供し、家族様と本人様の絆が維持出来るように支援しています。面会に来訪しやすい環境作りや夏祭りや餅つき会などの行事に招待しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力して頂きながら馴染みの方々や馴染みの場所への外出の機会を作り、関係が維持出来るように努めています。	孫・ひ孫・兄弟と家族の訪問が多く、これまでと変わらぬ交流が出来ている。馴染みの美容院へ行ったり、墓参りや法事に出席する等、これまでの生活習慣を大切にしている。訪問が困難な家族には、携帯電話で利用者の動画を送り現況を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入りながら利用者様同士がスムーズにコミュニケーションが取れるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談や来所を気軽に頂けるよう心掛けしている。病院へ入院した方へも面会やご家族にお配慮した声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々や家族様とコミュニケーションを取りながら日々の生活をどのように望まれているか、その都度検討し望まれる生活が送れるように努めています。	入居時に家族から本人の好きな物・苦手な事等、これまでの生活歴を詳しく聞き取り、全職員が共有している。一日一回、必ず笑ってもらうという思いで、日々のかかわりの中で声掛けを工夫しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初のアセスメントを活用したり今までの生活背景等を聴き出し把握に努め、継続して頂ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録・バイタル表や排泄表を設け又、業務日誌等を活用し、職員や医療機関との情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にモニタリングを行い、会議等での意見交換情報を共有することで今後の介護計画に反映できるように努めています。	担当職員を中心に、日頃のかかわりの中から、身体状況の変化等、気付いた事を話し合い、意見交換を行い現状に即した計画作りを行っている。状況の変化に応じその都度見直し、家族へ連絡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事・水分量・排泄等の身体状況及び日々の様子等を記録し、いつでもすべての職員が確認し情報を共有し業務に入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な対応ができるように職員同士がコミュニケーションを取り、利用者やご家族のニーズに合わせて外出等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し意見交換をし、ボランティアや介護相談員の訪問などを受け入れ活用している。また、近隣のスーパーなどに出かけ地域と触れ合う機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関の往診があり、常に医療機関と連携がはかれるように努めています。	連携病院の利用者が多く、往診回数が多い。利用者に状態の変化が見られたら、いつでもすぐに病院に相談して指導をうけて、適切に対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用し常に医療機関と情報を共有し迅速な対応ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・ご家族様・ホームが共に情報の共有が出来るように、ホームが懸念的な役割を果たせるように努めています。入院時は定期的な面会を行い、事業者で対応が可能な早い段階で退院できるようにし、通院で治療の継続を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との連携を密に取り医療機関に助言をして頂きながら家族様の意向を確認し今後の対応について家族様・病院・ホームが共に検討していくようにしています。	利用者の状態に合わせて、個別に家族と何度も話し合い、意思の確認しながら丁寧に取り組み、安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設け又、定期的にホームで普通救命講習会を開催したり緊急時の対応についての勉強会をし事故発生に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会いのもと避難訓練を実施しています。また、反復練習をすることで災害時に備えたいと思います。地元の消防団の方々に施設内を見学して頂いたり、災害時の協力体制の情報共有をしています。	消防署立ち合いの訓練の他に、災害想定を変えたり、夜間を想定した訓練を全員が参加して実施している。緊急持ち出し品は入り口近くに、備蓄品は二階の倉庫に準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアをする際にまずはご本人の気持ちを尊重しさりげないケアを心掛けたり、状況に応じた個別のプライバシーを確保している。自己決定しやすいような言葉かけをするように努めている。	利用者のレベル低下があり、本人の意思や自己決定の確認が難しくなっている。職員は、より深く観察し、引き継ぎの状態報告を密にして、情報を共有しあい、言葉かけや支援、介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも選択肢を持って自己決定できる支援や声掛け、答えやすい質問形式にしたり本人の考えを代弁できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その場の体調や様子を見たり、希望を聞きながら過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容に気を遣い、衣類の乱れ等もその都度対応している。定期的に出張利用サービスにより散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	レベルに合わせて、野菜の皮むきの手伝いや食事中の会話を通し食への楽しみが増すよう支援している。また茶碗拭きの手伝いや盛り付けの手伝いをしています。	食事介助が必要な利用者が増えている。おやつに、みんなが好む洋菓子や飲み物を用意して、食べる喜びを感じられるようにしている。介助が必要な利用者には水分の摂取量に気を付けて、ゼリー状にして、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量についてチェック表に記入し一日のトータルが把握できるようにし不足の際は好みの物や栄養補助食品の提供を行っている。レベルに合わせて食形態や食器類も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた対応を行い口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の管理ができない場合はホームで預かり管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に応じたトイレ誘導を実施している。失禁なく排泄出来た時など喜びも共に分かち合いながら自立支援に努めている。	排泄・水分チェック表を使用し、個々の排泄の内容を細かく記録し、周りに配慮しながら声掛け誘導を行っている。座っている事が多い利用者には、少し離れたトイレへ誘導し、日常の動きを増やし、体力維持を図りながら排泄の自立へ繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取したり、こまめに水分を摂ることや軽運動を行う事で便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を活用し体調に考慮しながら、本人の想いを尊重しながら声かけし実施しています。個々に合わせて一般浴と機械浴を併用し実施しています。拒否がある場合はタイミングを見ながら安心して入れるように声掛け等に工夫しています。	利用者の希望や体調に合わせ、無理なく入ってもらうようにしている。あせも・アザ等のチェックを行い、入浴後は保湿クリームを使い乾燥を防いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安の解消をしながら安眠できる環境作りをしています。一人ひとりのライフスタイルに合わせた生活の実現を支援できるように努めています。なるべく日中の活動を促し、夜間心地よく眠りにつけるように生活のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットや服薬前のそれぞれにダブルチェックを実施し服薬事故の無いように努めています。またいつでも処方箋が確認・閲覧できるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様の生活歴や性格を考慮して役割や行事などのイベントも組み合わせや内容を工夫して楽しんで頂き、気分転換をしていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	敬老会の招待チケットや紅葉や桜や海など四季の移り変わりを感じて頂けるような外出支援を行っている。日常的には、洗剤やおやつ等の買い物に近くのホームセンターやスーパーへ出かけ気分転換を図っている。	初詣に行ったりフラワーセンター・七夕祭り等、月に1回、季節を感じられるような様々な場所への外出支援を行っている。日常的には、洗剤やおやつ等の買い物に近くのホームセンターやスーパーへ出かけ気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金をホームで管理していますが、必要や希望に応じて一緒に買い物に行ったりする機会を作り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が不安になった時などはご家族様に協力して頂き、自由に電話など会話できる環境を作り支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	美化に努め温度等の管理も細目を実施している。共有スペースに季節にあった装飾を行ったり、利用者の写真や書かれた書道を飾ったりしています。	清掃が行き届き清潔に保たれている。居間は日当たりが良く、広々とし壁には、花見や誕生会等、月毎の行事の写真や利用者の作品が飾っており、利用者の殆んどは日中をここで思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格面や安全面を考慮して会話が出来るように席の配置を意識したり、ソファスペースを設け自由に利用できるようしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	本人やご家族と相談しながら、一人ひとりの状態に応じた環境を整備している。家具の配置等は安全を考慮しながら本人の希望を聴いて実施しています。持ち込みを制限せずに馴染みやすい空間作りを心かけている。	部屋の入り口には、誕生会や家族との笑顔の写真が貼ってあり目印になっている。居室担当者により整理整頓がなされ、状況に応じ、安全に配慮して家具を固定している。各部屋に加湿器を置き、温度・湿度を管理し風邪の予防にも繋いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分のお部屋を認識しやすいようにプレートを設置しています。本人が戸惑いなく生活出来るように努めるとともにリスク管理を行いながら安全に自立に近い生活が送れるように配慮しています。		